

第5領域「地域の教育課題と学校・教師」

金子 淳嗣

本科目は、4名の教員（相庭、雲尾、向山、金子）が担当し、17名の受講者を対象に実施した共通必修科目である。平成28年度前期に、特定連携協力校・新潟市立浜浦小学校を授業会場として実施した。本科目の到達目標は、次のとおりである。

地域社会における学校・教師の役割を地域創生・伝統文化の継承・人権の尊重の観点から理解し、それを教育実践活動に生かすことができるようになること。

1. 授業の実際

1) 地域の教育課題の背景と学校・教師の役割の理解

本科目では、授業の前半で、担当教員が地域の教育課題に関する問題提起を行った。それを受け、授業の後半で、現職教員院生と学部新卒院生とが入った小グループに分かれ、話し合いを進めた。話し合いはファシリテーションの手法を用いて行い、様々な気付きや新たな発想、異なる見方や考え方などを基に、互いに学び合うことを大切にした。その後、グループで話し合った内容を紹介し合い、地域の教育課題をどのように受け止め、それに対して、学校や教師に何ができるかを全体で共有した。

2) ワークショップの開催と施設見学の実施

院生一人一人の視野が広がるよう、講師を招いて国際理解教育に関するワークショップを開いた。グループでテーマを決め、構成や進め方に配慮しながらワークショップづくりに挑戦することで、参加する側から企画する側へと視点を転換することができた。

また、新潟市の先進的な生涯学習関連施設（中央図書館、若者支援センター、生涯学習センター、中央公民館）を見学した。地域の活動との関連や各施設との連携を視点として、これからの学校に求められる教育活動の在り方について考える機会となった。

2. 次年度の改善に向けて

地域社会における学校・教師の役割を見つめ、それぞれの実践に生かしていけるよう、次年度も、見方や考え方を問い直すような問題提起を行う。そして、協働的な学びや体験的な学びの在り方を常に見直すことで、解決に向けた過程をさらに充実させていく。